

[陸上競技]

神奈川マラソン・ハーフの部 2年連続で表彰台独占

優勝・湯野、準優勝・高橋、3位・佐藤

2月5日に横浜市磯子区で行われた神奈川マラソンのハーフの部に専大から12人が出場し、湯野隆太郎（経営3・沼田高）が1時間4分29秒で優勝。高橋良輔新主将（経済3・藤沢翔陵高）が準優勝、佐藤彰浩（文3・田村高）が3位と、昨年に引き続き専大勢が表彰台を占める好成績を収めた。

序盤はペースが上がらないこともあって先頭集団はなかなかばらけない。小柳秀文（経営1・長崎南山高）が集団を引っ張り、積極的なレースを展開するが、10キロ地点で佐藤が飛び出し、そのままレースを先導する。湯野はトップグループの後方から徐々に追い上げ、10キロ過ぎの折り返し地点では集団のトップに躍り出た。最後は湯野と高橋が集団を振り切ったが、ラストスパートで湯野が争いを制した。

「調子は良くなかった」と入賞者全員が口をそろえるなか、「全体の底上げができてきている」と加藤覚監督は確かな手応えをつかんでいたようだった。これから開幕する春のトラックシーズンに向けて好調なスタートを切った。

（宮山 友希・文2）

[レスリング] デーブ・シュルツ国際大会(米)

フリースタイル55kg級 稲葉が準優勝

2月3、4日に米国コロラド州コロラドスプリングスでデーブ・シュルツ国際大会が行われ、フリースタイル55kg級に出場した稲葉泰弘(経営2・霞ヶ浦高)が見事準優勝に輝いた。

12月の天皇杯全日本選手権準優勝が評価され、2年連続の出場。昨年と比べ「自分自身が変わっていると感じた」と語る通り、4度目の国際大会は、準決勝で昨年度の覇者を難なく攻略。決勝を振り返り「力があれば勝っていた。力負けした」と満足しておらず、悔しさが残っている様子だった。

また、3月11、12日にウズベキスタン・タシュケントで行われたウズベキスタン・カップのフリー55kg級でも銅メダルを獲得した。初戦で世界チャンピオンのマンスロフと対戦。世界王者を相手に善戦したが惜しくも敗退。敗者復活戦を勝ち上がり、3位決定戦で田岡秀規(自衛隊)に勝利した。

昨年の世界ジュニア選手権で準優勝するなど、その実力は確かなものとなりつつある。この勢いでさらに力をつけ、世界に「稲葉泰弘」の名前をとどろかせて欲しい。

(清水 智之・ネット情報2)

[スキー]

女子大活躍 各大会で上位に

安田、清澤、服部、大森、清水

スキー部(女子)が2月から3月にかけて行われた各大会で上位入賞を果たし、活躍した。

FISファーイーстокップジャパンシリーズ白馬大会(3月15日=長野県八方尾根スキー場)のスーパー大回転で安田かずみ(経営2・歌志内高)が優勝、清澤恵美子(経営4・歌志内高)が準優勝。3月14日、同会場で行われた全日本スキー選手権アルペン競技の同種目でも3位となった安田は「これまで優勝できず、悔しい思いをしてきたが、清澤先輩をはじめ、多くの先輩たちの頑張る姿を見てきたからこそここまで頑張れた。勝ちたいと思い続けてきたのでうれしいです」と語った。

2月28日から3月3日まで長野県下高井郡志賀高原で行われた全日本スキー選手権(技術系)では服部七穂(経営4・双葉高)が回転で3位と健闘。「難しいコースで、コースアウトする人が多いなか、入賞できてとてもうれしいです」と話した。

大回転で10位に入った清澤は、FIS志賀高原カップ(2/25~28)で7位、FISフェニックスカップ(2/25~28)で6位と、共に回転で入賞した。

2月11日から13日まで群馬県片品町で行われた国民体育大会冬季大会スキー競技会では、女子5キロクラシカルで大森菜保子(経済1・花輪高=秋田県代表)が4位、清水美穂(文1・飛騨神岡高=岐阜県代表)が9位となった。

(宮山 友希・文2)

[スピードスケート]

全日本選抜3000メートル 井出3位、今野4位

2月24日から26日まで岩手県営スケート場で行われた第40回全日本選抜スピードスケート競技会で、3000メートルで井出智秀(商4・小海高)が3位、今野陽太(経営1・白樺学園高)が4位に入賞した。また、1000メートルで依田幸一郎(経営4・佐久長聖高)が6位、1500メートルで荒倫宏主将(商4・池田高)が、5000メートルで井出がそれぞれ10位に入った。

井出は「練習時間があまり取れないなか、好成績を残せて良かった」と話した。

(宮山 友希・文2)

「リーダーズキャンプ」開催 各部主将・主務ら96人が参加

「勝つために何が必要かー」グループ実習、発表通し討議

第42回専修大学体育会リーダーズキャンプ(体育会本部主催)が3月1、2日、静岡県伊東市の「ホテルニュー岡部」で行われた。各部の主将・主務ら96人が参加し、「『勝利』に対する自己への問いかけーリーダーとして部をまとめ、勝つために何が必要かー」をテーマにグループ実習、発表などを通して、リーダーとしての役割や資質などについて考えを深めた。

両日とも講演会が開催され、1日目は三宅スポーツマッサージ代表の三宅公利さんが身体トレーニングとトレーニング方法について実践を交えて指導。2日目は川崎フロンターレの福家三男ゼネラルマネージャーがチーム力を向上させるために必要な要素やリーダーの役割について語った。

閉会式では、各部が昨年度の反省と新年度の抱負を述べ、健闘を誓い合った。

(宮山 友希・文2)

《記録コーナー》

◇馬術部

▽関東学生馬術新人競技大会(3月4日=東京競馬場)障害飛越競技・武井慎弥(経済1・奈良高)=3位、同団体=4位

▽スクーリングジャンプ&ドレッサーージュ(2月19日=JRA馬事公苑)【JEF馬場馬術競技・第3科目2006A】沼尻孝夫(経営3・取手松陽高)=優勝、西原郁人(経済2・札幌光星高)=準優勝、渡辺脩(経済3・関東国際高)=5位、武井慎弥=7位、石澤崇幸(経営2・帝京第三高)=8位【東京障害飛越競技(H90-1)】石澤=6位【東京障害飛越競技(H110-1)】渡辺=8位

◇陸上競技部

▽日本学生ハーフマラソン選手権(立川マラソン、3月12日=国営昭和記念公園)男子ハーフの部・佐藤彰浩(文3・田村高)=7位(1時間5分49秒)

◇ローラースケート部

▽東京都女子ホッケーオープン選手権(2月11~26日=柏市CMSリンク)3位※庄司郁佳(文3・和洋九段女子高)が敢闘賞を受賞